

■市民ワークショップの開催について

1 ワークショップの目的

- 市民ワークショップは、障害者基本計画の策定に当たり、清須市の障がい者の現状と課題から清須市の特徴を踏まえた地域での取り組み（支えあい等）を立案することを目的に実施しました。

2 市民ワークショップの概要

【タイトル】障がいのある人もない人も地域で支えあう社会づくりを考える市民ワークショップ

	第1回目	第2回目
日時・場所	○平成 29 年 9 月 9 日（土） ○13：30～15：30 ○清洲市民センター	○平成 29 年 9 月 23 日（土） ○13：30～15：00 ○清洲市民センター
テーマ	○清須市の障がい者の地域生活の現状の課題 ○課題解決のアイデア	○力を入れるべき課題解決のアイデア ○アイデアの具体化
参加者	27人	24人

3 ワークショップの進め方

- ワークショップは、2回に分けて開催し、次の4つのステップで意見交換しました。
- まず第1回目は、障がい者の地域生活における課題を発表し、出された課題に対して課題解決のためのアイデアを考え、グループ毎に意見を取りまとめました。
- 第2回目は、課題解決のためのアイデアの中から、力を入れて取り組むべきアイデアをグループ内で選んでいただき、そのアイデアを誰が（どこが）、何のために、どのように行うかということを具体的に話し合いました。

（第1回目）

- ① 清須市の障がい者の地域生活の現状の課題をリストアップする



- ② 課題解決のためのアイデア（地域の支えあい案）を考える

（第2回目）

- ③ ①～②の成果から、力を入れて取り組むべきアイデア（地域の支えあい案）を選ぶ（1～3つ程度）



- ④ 選んだアイデアをできるだけ具体化する

4 障がい者の地域生活の課題と課題解決のアイデア

- ワークショップで出された主な課題と課題解決のアイデアは以下の通りです。課題解決のアイデアの網掛け部分は力を入れるべき“課題解決のアイデア”として選ばれたテーマです。

A グループ

課題	課題	課題解決のアイデア
雇用	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の雇用にさらなる後押しをすれば働ける人が多くなる 企業に対して障がい者理解の場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ジョブコーチの支援充実 障がい者に対する会社説明会 1 時間でも働ける場を作る
親亡き後の不安	<ul style="list-style-type: none"> 親亡き後の生活の場 市内のグループホームが必要 	<ul style="list-style-type: none"> グループホームへの公的支援 空き家の利用
居場所・社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 休日の家以外の過ごす場所がない 気軽にいつでも利用できる場所がない 学校では障がいのあるなしで分けられているが、障がい児が普通学級に通ってもよい 普段の生活の中で障がい者に接することが少ない 障がいのある人への理解がない 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいに対する社会の理解 小さい頃から障がい者が地域の中で当たり前で過ごす環境づくり 小学校と特別支援学校との交流 分けない教育（保育・小学校・中学校） 社会参加できるイベントを増やす
市との協力	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者と行政との意見交換の場がない 住民基本条例がない 個人情報の問題があり身体障害者福祉協会の活動がしづらい 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者理解のため市長との懇談会、交流会のような機会の創出 市のよろず相談窓口をつくる 市との協力を進める
社会資源（あしがるバス）	<ul style="list-style-type: none"> 通学・通勤の際に移動支援が使えない サービスと利用をつなぐ支援がない どんな社会資源があるかわからない あしがるバスをもっと気軽に使いたい 市のバスを障がい者関係の事業に利用させてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップをつくる 移動支援を通学・通勤に使えるようにする 市の社会資源、福祉サービスを使いやすいようにする
生活等	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の中で愚痴を言う人がいない 歩いて行けるスーパーがない 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活をうまくしている障がい者、その家族にその成功例を聞き、参考とする

Bグループ

課題	課題	課題解決のアイデア
将来への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・自分亡き後の不安があり、残った家族が安心して住める場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームを増やす ・聴覚障がい者及び他の障がい別の施設をつくる
コミュニケーションの不安	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者が施設入所した場合の不安 ・聴覚障がい者の公的機関の話し（聴こえ）のフォローがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話のできる介護士を養成する ・学校で手話通訳を学ぶ機会をつくる
災害時の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者に対して近隣で災害があった場合のフォローがない ・聴覚障がい者は見た目がわかりにくく、コミュニケーションの障がいになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に配る災害時のシミュレーションに福祉避難所や障がい者への対応の注意点を入れ、市民にアピールする ・災害時に備え、関係団体との連携を強くしておく
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚・難聴の子どもの学校受け入れ体制が不安 ・保育園への障がい児の受入れが不安 ・特別支援学校に通う子どもが地域と交流する場がほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼ園、放課後等デイサービスの資質向上のための合同研修の実施（障がい理解のため保育園も一緒に参加） ・市内の保育園・学校・児童館が障がい児を積極的に受け入れる ・特別支援学校在籍児の居住地校の交流を推進する
障害者への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児・者に対する一般市民の理解はまだ遅れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流する場としてサロンをつくる ・親の会が専門的な講演会をしているため、そこで交流のパイプをつくる
移動手段への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー券をもう少し増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの場合 1 年分の回数券があるとよい
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が働きやすい会社が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所での障がい者雇用を推進する ・市内企業・事業所の障がい者雇用率をアップさせる ・障がい者雇用について市からフォロー、バックアップする
相談・情報	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者の相談窓口として週 5 日対応していただいているが、時間が限られている ・情報のあるガイドブックをお願いしたい（医療・学校・相談窓口） ・相談先が幼児→保育園→学齢期とステージが変わるたび一本化していない ・民間事業所（放課後等デイ）と行政（学校・園等）との連携が十分できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児・者の専門性の高い職員が施設との連携を強化する ・障がい児・者の相談に対するワンストップ窓口をつくる（保健・医療・福祉の知識のある職員の配置）

C グループ

課題	課題	課題解決のアイデア
地域交流	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の意欲を引き出す支援が必要である • 特別支援学校に行ってしまうと、地域の子供たちとの交流があまりできない 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域のお祭りがラジオ体操等障がい者の参加の機会を創出する
就学、就職支援	<ul style="list-style-type: none"> • サービスを提供する事業所が少ない • 障がい者が気楽に集まれる場所がない • 高校を卒業してからの就労以外の日中活動の場が少ない • 地域の保育園や小学校に入れてもらえない 	<ul style="list-style-type: none"> • 障害福祉サービス事業所を 1 か所に集めて、障がい者に説明する場をつくる • 就学や就職の日中活動の情報提供を行う
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> • 道路の歩道部分は段差があり歩きにくい • 施設面でバリアフリーがされていない • 障がい者用トイレが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> • バリアフリーに関するニーズ調査をして行政に伝える
移動支援	<ul style="list-style-type: none"> • 学校、職場に通うための手段がない • 通学で移動支援が使えない 	<ul style="list-style-type: none"> • あしがるバスの本数、ルートを増やす • 学校、職場への送迎サービスを創設する • 一般の方で登録制にして移動支援を行う
障害者への理解	<ul style="list-style-type: none"> • 障がいに対する理解がない • 障がいがあるため避難所に行きにくい 	<ul style="list-style-type: none"> • 障がいについての市民の講習会を開く • イベントの企画等で交流の機会をつくる
行政サービス	<ul style="list-style-type: none"> • 軽度の障がいでは年金も少なく国民年金を支払わなければならないので、親のお金に頼らざるを得ない 	<ul style="list-style-type: none"> • 軽度障がい者の国民年金の支払いを見直す

5 取り組むべきアイデア

- 課題解決のアイデアから、A・B・Cの3グループはそれぞれ力を入れるべきアイデアを選んでいただき、そのアイデアを具体化した結果、6つの取組となりました。各取組を優先すべき重点課題と考え、計画への反映を進めていきます。

Aグループ

取組み名称	①障がいに対する社会の理解 ・教育を分けない	②雇用機会の創出
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、校長、教頭、教師 ・大学、保育士、教育関係者 ・親、PTA ・教育委員会、行政、地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者 ・社長 ・清須市、就業生活支援センター ・ハローワーク ・特別支援学校
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいへの理解を深め、偏見を持たなくする ・小さい頃より障がいのある子もない子も一緒に過ごし、違いを尊い、多様であることを当然のこととして考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用主が障がい者のできることを理解する ・その人の個性を生かして雇用する
方法・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職場では、障がいについて話し合い、報連相を行う ・親の理解 ・学校関係者の勉強会 ・通常学級で過ごせるようにする ・地域の行事を一緒に楽しめるよう企画・運営する 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用主・職場の障がい者に対する理解を進める ・障がい者ができそうと思う仕事を雇用主等が理解する ・商工会・ハローワークの連携が必要である ・市が雇用促進運動を行う

Bグループ

取組み名称	③生活の場の確保	④相談しやすい環境
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> 行政、通所施設 障がい者本人 障害者支援協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 行政 (障がい者) 関係団体
主な目的	<ul style="list-style-type: none"> 自立して自分らしく生きるため 障がい者の自立のため グループホームや施設を増やすため 	<ul style="list-style-type: none"> ワンストップで総合的な相談を受けられるようにするため 情報保障の平等性のため まず心を楽しむため
方法・内容	<p>(人材確保と財源)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職員、日中施設の職員の確保 待遇の改善 福祉職員の質の向上のため、有資格者など条件が厳しくなり、人が集まらないので、条件の見直しをする <p>(一般の人への理解を進める)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他市町村の取組や施設を見学する住民ツアーを企画する アパートなどに障がい者の枠を作る 支援者を募り、共に生きる 	<p>(相談に行きやすくする)</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初にどこへ相談に行けばいいかわかる看板・窓口を設置する 事業所、相談先、自助グループがわかる冊子を作成する 相談された人はまず、行政に行くことを薦める <p>(専門の窓口を作り、相談員を置く)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所に福祉・障がい者専門窓口をつくる 専門窓口にて専従の相談員を置く(有資格者) 相談支援事業の充実を図る

取組み名称	⑤交流する場をつくる
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> 行政 学校、保育園、特別支援学校 市民、ブロック社協
主な目的	<ul style="list-style-type: none"> 違和感なく当たり前という意識を高めるため 障がいがあっても育ちあえる場をつくるため 障がい者(児)と家族が交流するため 障がい者(児)のことに関心を持つため どんな団体があるか知りたいため 各団体・他のグループと交流するため
方法・内容	<ul style="list-style-type: none"> 小さい時からの教育で自然に障害者と接する 地域の子は地域の学校(園)という基本姿勢とする 放課後等デイサービスの利用 広報で、障がいのある人とない人、高齢者などが交流する様子を自然に取り上げる 障がい児・者と家族のためのサロンを開く ボランティアグループに補助金を多くする

C グループ

取組み名称	⑥移動支援
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公（行政機関・社会福祉協議会） ・ 民（事業所・タクシー会社） ・ 個（シルバー人材センター、地域住民、ボランティア（有償・無償））
主な内容	<p>（家族の負担軽減）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の負担を減らすため ・ 保護者が就労する時間が確保できるため <p>（本人の自立促進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通学、通勤、通院のため <p>（日常生活・余暇）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物、日常生活のため
方法・内容	<p>（支援者の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域（ご近所さん）の力を調査し、活用する ・ ボランティア（登録制）、学生ボランティアを育成・活用する ・ シルバー人材センターを活用する ・ 民生委員等に協力を仰ぐ <p>（自立促進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず自宅から学校までを付き添い、自立を促す ・ 移動支援をトレーニングと捉える <p>（今後の希望）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動支援の支援内容の拡充（通学・通勤に利用できるように） ・ 交通費の負担は家族でなく行政の補助を希望 ・ 急な時にでも対応できる体制づくり

■取り組むべきアイデア（優先すべき重点課題）

- ①障がいに対する社会の理解・教育を分けない
- ②雇用機会の創出
- ③生活の場の確保
- ④相談しやすい環境
- ⑤交流する場をつくる
- ⑥移動支援